

## ひと研究所†

### スマホはシニアの新しいコミュニケーションツール！？

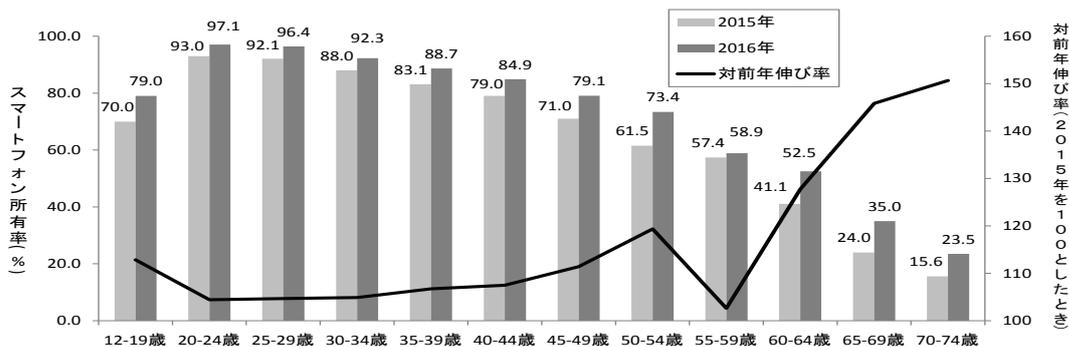
#### 60代前半の半数以上が使い、3人に1人がLINEアプリを利用

2016年9月13日  
 株式会社ビデオリサーチ

株式会社ビデオリサーチ(本社:東京都千代田区、社長:加藤讓)は「Senior+/ex」(シニアプラス)の最新データとSNSについてのアンケートから敬老の日になみ「シニアとデジタルモバイル」について分析した結果を紹介いたします。なお、この結果はシニア研究プロジェクト「ひと研究所 VR エイジング・ラボ」が主体となって実施しています。

ここ数年急速に普及している“スマホ”。シニア層における浸透はどのくらいかを調べてみたところ、60～64歳は2人に1人がスマホユーザーであることがわかりました。また65～69歳でも3人に1人、70～74歳も4人に1人が所有していました(今年4～6月の調査時点)。昨年からの伸び率を見ると60代を中心にシニア層が伸びています【グラフ1】。すでに普及が進み伸びへの期待が出来ない若い世代に比べ、シニアはまだ普及の余地を残しているといえそうです。

【グラフ1】 スマホ所有率と伸び率

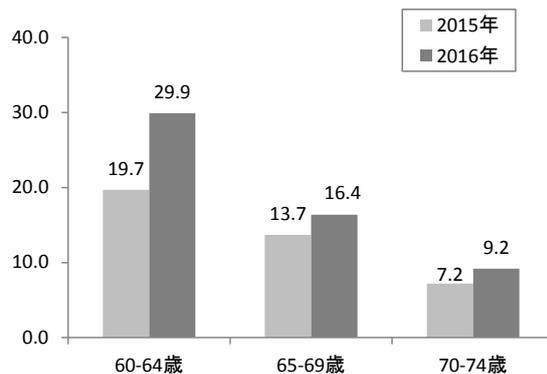


また、同じくコミュニケーションツールとして普及してきているLINE。LINEを利用している60～64歳は3割を占めています。65～69歳は2割弱、70～74歳は1割弱で、前年と比べるとスマホ所有と同様に60代前半の利用率が顕著になっています【グラフ2】。

LINEをどのように使っているのかを別途アンケートをしたところ、「娘に対して夕食や帰りの時間の確認」「家族内での食事会、イベントなどの相互連絡と孫たちの情報と写真交換」など多くは家族との日常的な連絡手段として使われています。中には「夫とテレビの話題」と言う人も。その一方で、友達同士でも使う人も増えているとみられ、「趣味の仲間との次回の約束」「ゲームで意見交換」「レストランやショップ、商品の情報交換」「飲み会の打ち合わせ」といった会合のスケジュールや場所のやり取りなど、さまざまな情報交換がされており、利用目的は若者と大きく変わりありません。

スマホはシニアの新しいコミュニケーションツールとして、今後ますます浸透していくかもしれません。

【グラフ2】 LINE アプリ利用率（スマホまたはタブレットでの利用）



## 『ACR/ex』（Senior+/ex）調査概要

調査方法	訪問による調査対象者説得、電子調査票による調査
対象者抽出方法	エリア・ランダム・サンプリング
対象者条件	12～74歳男女 ※12～69歳は「ACR/ex」、70～74歳は「Senior+/ex」より抽出
調査エリア	東京50km圏
調査時期	2016年4～6月
サンプル数	有効回収: 5,062S

## SNSについてのアンケート 調査概要

調査地区	全国
対象者条件	55～74歳男女
調査サンプル	1,166S
調査方法	インターネット調査
調査時期	2016年8月

## ※ビデオリサーチ『ひと研究所 VRエイジング・ラボ』とは？

(株)ビデオリサーチがシニア市場の活性化を目指して立ち上げたシニア研究プロジェクト。老年学の専門家や自身がシニア年代のマーケティングコンサルタント、オピニオンリーダー的シニアが所属する NPO 団体とも連携し、リアルなシニアを捉えマーケティング活動に活かすべく、研究活動や情報発信、企業のシニアマーケティングへのコンサルティング業務を行なっています。